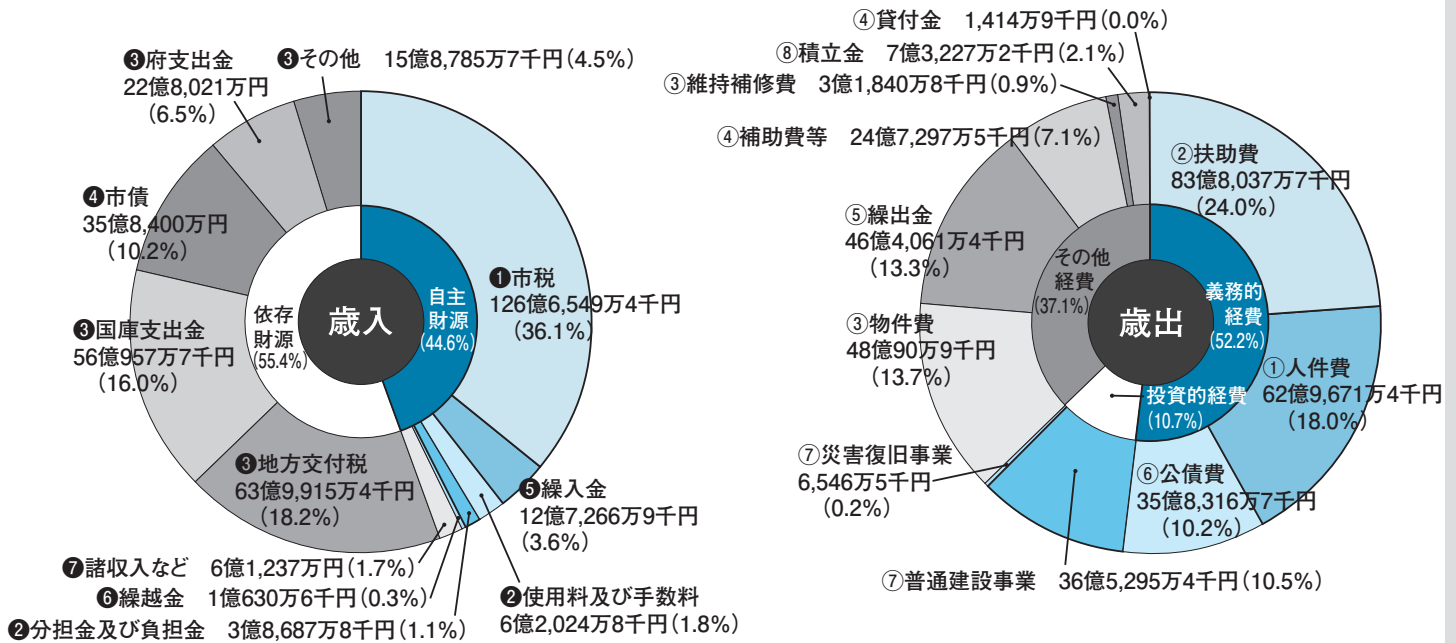


# 河内長野市の財政状況をお知らせします

平成25年度の決算がまとまり、一般会計の歳入総額は351億2,476万3千円、歳出総額は349億5,800万4千円となりました（下記円グラフ参照）。翌年度へ繰り越す財源を差引いた実質的な収支は、4,263万2千円で、黒字決算となりました。

ここでは、市民のみなさんの税金などがどのように使われたのか、サラリーマン家庭の家計に例えて説明しながら、市の財政状況についてお知らせします。

問い合わせ 財政課



※上記グラフの番号は下表の家計簿の番号と対比しており、同じ比率で家計簿の数値を算出しています。



かわちながの家の

## 家計簿

月収30万円  
としたら

(単位:円)

| 項目           | 収入             | 支出                   |                |
|--------------|----------------|----------------------|----------------|
| ① 給与収入       | 108,200        | ① 食費                 | 53,800         |
| ② パート収入      | 8,600          | ② 医療費・教育費            | 71,600         |
| ③ 親からの援助     | 135,600        | ③ 光熱水費・日用品・修理        | 43,700         |
| ④ 金融機関からの借入  | 30,600         | ④ 自治会・サークルの会費        | 21,200         |
| ⑤ 貯金の取り崩し    | 10,900         | ⑤ 子どもへの仕送り           | 39,600         |
| ⑥ 前月からの繰越金   | 900            | ⑥ ローンの返済             | 30,600         |
| ⑦ 雑収入        | 5,200          | ⑦ 家の増改築              | 31,800         |
|              |                | ⑧ 貯金                 | 6,300          |
| <b>A</b>     | <b>300,000</b> | <b>B</b>             | <b>298,600</b> |
| 余ったお金        |                | <b>A - B = 1,400</b> |                |
| 貯金残高 987,100 |                | ローン残高 6,718,600      |                |

① 市民税や固定資産税など

② 使用料、手数料など

③ 国庫・府支出金、地方交付税など

④ 市債

⑤ 繰入金

⑥ 繰越金

⑦ 諸収入など

① 人件費

② 扶助費

③ 物件費など

④ 補助費など

⑤ 繰入金

⑥ 公債費

⑦ 普通建設事業費など

⑧ 積立金

※貯金残高、ローン残高については、年収360万円とした場合

■市債・基金の状況

(単位：千円)

| 種類        | 金額                | 主な使い道           |
|-----------|-------------------|-----------------|
| <b>市債</b> | <b>65,552,349</b> |                 |
| 臨時財政対策債等  | 18,112,053        | 財源不足への対応など      |
| 通常の建設地方債  | 15,483,689        | 教育・福祉施設等整備事業債など |
| 下水道事業債    | 27,315,573        | 下水道事業           |
| 水道事業債     | 4,641,034         | 水道事業            |
| <b>基金</b> | <b>9,631,305</b>  |                 |
| 財政調整基金    | 2,604,053         | 財源不足への対応        |
| 減債基金      | 849,400           | 借金の返済           |
| 普通建設事業基金  | 2,003,543         | 一般建設事業          |
| その他特定目的基金 | 4,000,582         | 長寿ふれあい基金など      |
| 水道事業基金    | 173,727           | 用地取得・施設整備など     |

※市民1人当たりの市債の額は586,950円、基金の額は86,238円です。

■特別会計・水道事業会計の決算

(単位：千円)

| 会計名           | 歳入                | 歳出                |
|---------------|-------------------|-------------------|
| <b>特別会計</b>   | <b>28,297,170</b> | <b>27,827,134</b> |
| 国民健康保険事業      | 13,922,800        | 13,510,749        |
| 土地取得          | 199,816           | 199,816           |
| 部落有財産         | 432               | 432               |
| 下水道事業         | 3,848,695         | 3,847,527         |
| 介護保険          | 8,735,174         | 8,719,432         |
| 後期高齢者医療       | 1,590,253         | 1,549,178         |
| <b>水道事業会計</b> | <b>2,607,615</b>  | <b>3,232,940</b>  |
| 収益的収支         | 2,247,068         | 2,148,404         |
| 資本的収支         | 360,547           | 1,084,536         |

まちの財政状況

↳ 経常収支比率は98・0% ↵

平成25年度一般会計の財政状況は、家計に例えると、食費や医療費、光熱水費、ローン返済金など経常的な支出だけで半分以上を占めています。これらの支出が、給与収入や親からの援助金など経常的に入るお金に対して、どれくらいの割合かを表す指標を経常収支比率といい、前年度から1・6%改善し、98・0%となりました。しかし、高い水準であることには変わりはなく、日常の必要経費だけで給料の大部分を使い果たし、自由に使えるお金がほとんど残っていない状態です。平成25年度は、景気の回復などにより法人市民税収入をはじめ、株式等譲渡所得割交付金や配当割交付金などが好調でしたが、将来的には人口減少と高齢化による収入の減少、社会保障関係経費や公共施設に係る老朽化対策関係経費の増加が予想されます。今後も安定した財政基盤の確立に向け、「財政体質改善プログラム」に取り組み、将来のまちの姿である「安全・安心・安定した緑と笑顔のあふれるまち」の実現に向けた施策を展開していきます。

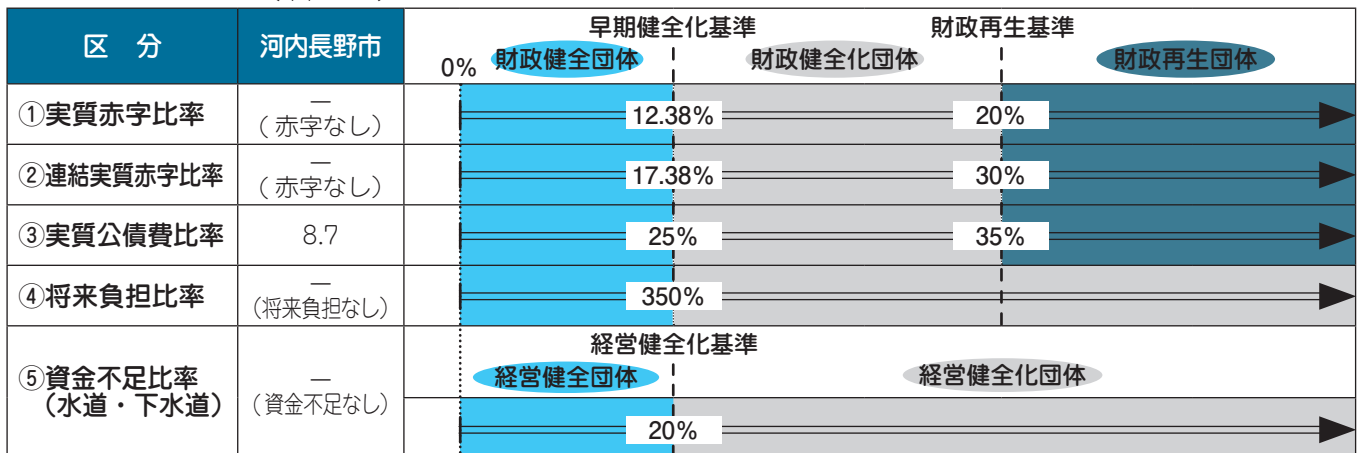
なお、一般会計とは別に、特定事業を区別している特別会計と公営企業として設けている水道事業会計の決算および平成25年度末の市債・基金の状況は上表のとおりです。また、市の財産(土地・建物)は、土地が292万5239平方メートル、建物が26万7144平方メートルとなっています。

一方、財政が健全に運営されているかの指標を表す財政健全化判断比率(下表)では、いずれの指標も早期健全化基準を下回り、健全な運営状態であると言えます。

■財政健全化判断比率

(単位：%)

健全財政 ← 財政悪化



●用語解説

- ①実質赤字比率：一般会計などの実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
- ②連結実質赤字比率：全会計の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
- ③実質公債費比率：一般会計などの実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
- ④将来負担比率：一般会計などが抱える実質的な負債の残高が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
- ⑤資金不足比率：各公営企業の資金不足額が、事業の規模に対してどれくらいの割合になるかを示すもの